

## 30年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 18.8	△ 25.0
	マツ	△ 44.4	△ 33.3	△ 38.9
	広葉樹	△ 40.0	△ 30.0	△ 35.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	7.1
	マツ	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 22.2	△ 27.8	△ 22.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 31.3	△ 18.8	△ 18.8
	マツ	△ 38.9	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 50.0	△ 35.0	△ 25.0

・チップ用国産原木の集荷動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は10月、11月の減少から12月は増加に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ	14.3	14.3	14.3
マツ類	6.3	6.3	6.3
広葉樹	5.6	5.6	5.6

・スギ・ヒノキの原木購入価格は強含み。  
・マツ類、広葉樹ともやや強含み。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・木質バイオマス発電関連へ原木が流れているため仕入、消費、在庫ともにやや減少（東北）。  
・木質バイオマス燃料向けの原木増加により入荷減少。在庫はスギ1.0→1.0カ月、マツ類0.3→0.1カ月、広葉樹0.8→0.5カ月（東北）。  
・仕入動向は、針葉樹原木の確保に苦労している状況である。平成31年度から森林環境贈与税（仮称）の施行に伴い自治体への贈与が開始され、林地残材が搬出されるようになると、多少チップ用原木が確保できるのではと期待している（関東）。  
・施業現場が針葉樹林のため広葉樹は入荷・消費・在庫ともに減少と予測（中国）。  
・スギ・ヒノキの仕入・消費動向ともに、天候も安定したことから当月の見通し横ばい、翌月、翌々月はやや増加見通し。在庫横ばい見通し（四国）。  
・原木は全樹種順調に入荷すると予想。消費動向は、製紙工場の施設点検のために針葉樹チップは10月から、11月からは全樹種とも減産の予定。したがって、原木在庫は11月からやや増加する見込み（九州）。  
・広葉樹原木の仕入は困難な状態が続いており、消費・在庫とも少ない状態が続いている（九州）。

## (原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも全体的に価格上昇（東北）。  
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも原木購入価格変動なし（中国）。  
・国有林のシステム販売物件は、平成30年度後期分は値上げで決着した（九州）。  
・広葉樹原木は横ばいに推移。スギ・ヒノキ、マツの原木は基本購入しない（九州）。

## 30年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 33.3	△ 33.3	△ 22.2
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 25.0	△ 37.5	△ 31.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	マツ類	△ 28.6	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 31.3	△ 25.0	△ 25.0

・木材チップの生産、出荷、在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・原木入荷減少のため生産、出荷、在庫ともやや減少（東北）。
- ・出荷量減少（東北）。
- ・針葉樹チップの出荷量増の要請あり（関東）。
- ・広葉樹については生産・出荷・在庫動向とも減少見通し（中国）。
- ・スギ・ヒノキの生産・出荷動向ともに、当月の見通し横ばい、翌月、翌々月はやや増加見通し。在庫横ばい見通し（四国）。
- ・11月は製紙工場が点検に入るため生産・出荷とも減少となる。木材チップの在庫はない（九州）。

## (木材チップ価格)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともチップ出荷価格変動なし（中国）。
- ・チップの出荷価格変化なし（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいに推移。スギ・ヒノキ、マツのチップは基本出荷しない（九州）。